

# 三重の商船高専「サイバー攻撃防ぐ」 IT特化コース設置へ

2023/9/22 5:00 | 日本経済新聞 電子版

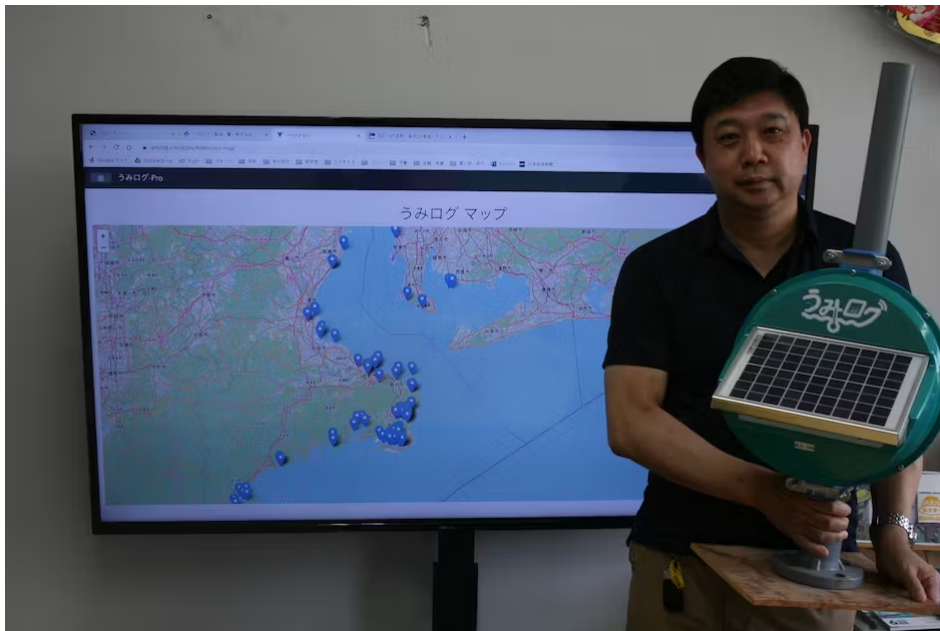


鳥羽商船高専は25年度に「高度情報工学コース」を設ける（三重県鳥羽市）

東海地区唯一の商船高等専門学校（高専）である鳥羽商船高専（三重県鳥羽市）が姿を変えつつある。情報機械システム工学科に2025年度、IT（情報技術）に特化した「高度情報工学コース」を設ける。港湾物流でのセキュリティーなどの先端知識や技術を学ぶとともに、企業や農業・水産関係者との地域連携も新コース設置で推進する考えだ。

「7月の名古屋港への攻撃を通じて、物流でもサイバー空間を守る体制が社会的に求められるようになった。要請に応えられる人材を育てたい」。鳥羽商船の和泉充校長は新コース設立の意義をこう強調する。

情報機械システム工学科は現在定員が80人。25年度に20人増員し、高度情報工学コース（定員40人）を新設する。港湾物流のシステムセキュリティーやデジタル工作機械の活用などを学ぶカリキュラムを予定する。同科にはものづくりを目指す総合工学コース（同60人）も置き、こうした新コースの授業は船の航行を学ぶ商船学科の学生も履修できるようにする予定だ。



養殖用観測装置と設置場所を示す鳥羽商船高専の江崎修央教授(三重県鳥羽市)

新コース設置を地域連携の推進にもつなげる。鳥羽商船は近年、研究成果を地域課題の解決に生かすことにも力を入れている。情報機械システム工学科の江崎修央教授が中心となり、ノリや貝類、魚の養殖現場にカメラやセンサーが付いた観測装置を導入し、鳥などの食害や、水温や潮流の変化などを調べながら養殖に生かす取り組みを進めている。

中部電力グループのシステム開発会社、中電シーティーアイ（名古屋市）と共同で、養殖ノリの色落ち被害を対話アプリ「LINE」で生産者に知らせる取り組みも進めており「実用化段階に入り、地域で広く使われるようになった」（江崎教授）。ITにより重点を置いた研究や人材育成を担う新コースでこうした地域貢献の拡大も目指す。

新コースの設置を契機に、商船学科の授業で使う練習船を遠隔操作したり、船を使って海の情報を収集したりする取り組みを始めることも視野に入れる。

同校は22年に企業や自治体などと交流し、共同研究や技術相談を受け付ける「鳥羽商船高専連携協力会」を設立した。約100社が参加し、製薬会社や化粧品メーカー、石油関連企業も名を連ねる。船の航行は目的地に船を進めるだけでなく、内燃機関の稼働管理や内部、外部との情報伝達を一貫して行う。「こうした作業は、企業の生産活動にも生かすことができる」（和泉校長）とみている。

商船高専は国立で全国に5校ある。鳥羽商船は明治初期の1875年創立で、5校の中で最も歴史がある。最近では北海道や沖縄など全国から入学する学生も増え、200人収容の寮は手狭になっている。海外からの留学生の受け入れ拡大も視野に入れ、寮を60部屋増やすことを国に求めていく考えだ。

（小山隆司）

# 地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.